

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38706	
事業名	新型コロナウイルス検査支援費						
評価担当課	所属名	保)保健所 医療政策課					
	課長名	高田 泰幸	担当者名	大澤 夏生	電話番号	011-622-5162	
施策名	主	-					
	副						
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外		
事業の性質	<input type="radio"/> 経常経費	<input checked="" type="radio"/> 臨時的経費					
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理				
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営	<input checked="" type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input type="radio"/> その他	
	目的	短期	無症状の従事者を対象とした予防的スクリーニング検査で陽性反応が出た職員について、早期に隔離や追加検査を行うことで、医療機関でのクラスター発生を未然に防ぐことができる。医療機関の正常な運営が保たれることで、医療の逼迫を防ぐことができる。				
		長期	当該事業は長期間実施することを想定していないため設定しない。				
	取組内容	療養病床を持つ、透析を実施している、あるいは精神科を標榜している病院(対象149施設)のうち、希望する病院(57施設)において新型コロナウイルス感染者を早期に発見し、医療機関内での感染拡大を防止するため、月1回の頻度で従事する無症状の職員を対象とした予防的新型コロナウイルススクリーニング検査を行う。検査は業務委託により実施する。1次検査として抗原定量検査を実施し、1次検査において、陰性とも陽性とも判断がつかないグレーゾーンの医療従事者に対して確定検査としてPCRを実施する手法で実施した。 ※事業自体は令和2年度から開始していたが、令和2年度は事業コード38524「感染症病床確保対策費」の一部として支出、令和3年度からは事業コード28640「新型コロナウイルス感染症患者等対策費」に統合					
実施結果	予防的スクリーニング検査事業には、対象149医療機関の内、希望した57の医療機関が参加しており、令和3年度では62、181件の検査を実施した。その結果、14医療機関41人の陽性反応を確認することができた。これらの医療機関については、早期に隔離を行うことでクラスター発生を未然に防ぐことができたと考えられた。また、予防的スクリーニング検査を実施することで、医療従事者の日常的な感染予防対策意識の向上につながったと考えられる。						
事業実施における工夫点	委託業者と医療機関との連絡を密にとりあい、検体採取から検査までの流れを手早く行えるようにした。						
対象者	療養病床を持つ医療機関等で従事する職員			開始	令和2年度	終了	令和3年度
関連法令・条例・要綱等							
他都市の状況	東京都、山口県、高知県などで医療機関に対するスクリーニング検査を実施している。						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	0	314,000	307,278	0	
うち特定財源	0	148,500	152,728	0	
人工	0.4	0.4	0.4	0.4	
人件費	2,880	2,880	2,880	2,880	
計(事業費+人件費)	2,880	316,880	310,158	2,880	
事業費の内訳	令和3年度決算	検査に使用する遠沈管の購入費用 1,822(千円) 抗原検査50,318件×5,995円=301,656(千円) 確定検査314件×12,100円=3,799(千円) ※ 令和4年2月~3月は、新型コロナウイルス感染症患者等対策費から下記の通り支出 抗原検査11,863件×5,995円=71,119(千円) 確定検査60件×12,100円=726(千円)			
	令和4年度予算	令和4年度以降については、新型コロナウイルス感染症患者等対策費から支出予定。 抗原検査42,000件×5,995円=251,790(千円)			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	検査実施件数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	7,677件	23,100件	62,181件	42,000件	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	無症状陽性者の早期発見につながった医療機関数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	1医療機関	-	14医療機関	-	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	今年度陽性判定が出た41人の医療従事者が所属する14の医療機関について、クラスター発生を防ぐ効果が認められたため、事業の目的は達成されている。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	検査機関と協議し検査枠の拡大を図り、前年度と比較して多くの医療機関を対象に事業を実施することができた。事業規模としては適正なものになったと考えられる。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	今年度からより精度の高い公定法で検査を実施するために委託業者を変更した。医療機関と委託業者の連絡体制を再構築し、効率的に事業を実施することができた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	無症状従事者への予防的スクリーニング検査を行うことで、医療機関関係者に安心感を与えることができていた。また、スクリーニング検査を行うことで従事者の意識向上につながり、結果として感染予防対策効果の向上につながったと考えられる。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	今回の業務実施方法は概ね適正だったと考えられるが、より効率的な業務体制を構築することを模索したい。また、今後は国からの通知等を参考に、スクリーニング検査に伴う医療機関の負担を軽減を図りながら、新型コロナウイルスの変異株の特性に応じた検査方法、検査頻度等を検討してまいりたい。				
前回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0 千円	
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	スクリーニング検査を実施することでクラスター発生を未然に防ぐことができたと考えられる。前年度よりも事業を拡充し参加医療機関を増やしたことで、より多くの医療機関の正常な運営を保つことに貢献したと考えられる。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input checked="" type="radio"/> 休止・廃止 本事業は今後統合され新型コロナウイルス感染症患者等対策費として支出予定であるため廃止する。			
	予算	<input type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input checked="" type="radio"/> その他 新型コロナウイルス感染症患者等対策費から支出予定であるため、本事業からの支出はない。		見直し効果額	0 千円